

## 巻頭言

叢書「コンフリクトの人文学」の刊行に寄せて —— 小泉潤二・栗本英世 —— III

はじめに —— 牟田和恵 —— V

## 第 I 部 再解釈される歴史——戦争というコンフリクトをめぐって

### 第 1 章

#### 沖縄戦をめぐる表象の政治

自治体史誌における「慰安婦」研究の形骸化に焦点を当てて —— 玉城福子 —— 003

はじめに

1. 「慰安婦」問題から問う沖縄戦の表象
  2. 自治体史誌と「慰安婦」問題
  3. 自治体史誌における「慰安婦」研究の形骸化
- おわりに

### 第 2 章

#### 脱政治化される戦争

戦争の記憶をめぐるジェンダーの政治 —— 牟田和恵 —— 025

1. 戦争の記憶をめぐるポリティクス——序にかえて
2. アジア太平洋戦争と平和／戦争記念館
3. 三館にみる戦争の表象
4. 平和の表象とジェンダー——ジェンダーの政治の普遍性
5. まとめにかえて

### 第 3 章

日本における平和教育とジェンダー —— 木村涼子 —— 049

はじめに

1. 戦中の軍国主義教育とジェンダー
2. 戦後日本における平和教育の歴史
3. 1980年代の平和教育教材の分析
4. 平和教育におけるジェンダー秩序

### 第 4 章

#### 戦争と男性性・ナショナリズム

オーストラリア「アンザック神話」をめぐって —— 山本ベバリーアン —— 069

はじめに

1. アンザック記念式典——舞台設定
  2. 理論的枠組み
  3. アンザック物語の創成と定着
  4. アンザック伝説への包摂とその逆説
- 結論

## 第5章

### 未来からの記憶

映画『第9地区』と正しさの所在 ————— 海野るみ — 109

はじめに

1. 世界の未来像としてのジョハネスバーグ
  2. ローカルな経験としての「第9地区」
  3. 「正しさ」の所在
- おわりに

## 第II部 再構成される価値——人権をめぐるコンフリクト

### 第6章

#### アジア的価値をめぐる論争

文化と人権 ————— ジェファーソン・ブランティリヤ — 123

はじめに

1. 誰の普遍性か
  2. アジアの文化と人権
  3. 権利を文化とつなぐ
  4. 議論の文脈
  5. アセアンの経験
- おわりに

### 第7章

#### 日本の人権教育と道徳教育をめぐるコンフリクト

人権的価値と道徳的価値に関する一考察 ————— 平沢安政 — 161

はじめに

1. 日本の人権教育の特徴
  2. 伝統的価値と国際人権基準の調整プロセス
- おわりに——国連の「人権教育活動の原則」が示唆すること

### 第8章

#### アジア・太平洋地域の学校における

人権教育の「制度化」にみる国家・市民社会の関係性 ——— 阿久澤麻理子 — 185

はじめに

1. アジア太平洋地域における人権教育「前史」
  2. ポスト冷戦期における人権教育の制度化と、それを支える各国の基盤
  3. 学校における人権教育
- おわりに

## 第9章

### 普遍的人権基準・人権教育と中国の伝統的価値観のコンフリクト

台湾からの報告 ————— マブ・ファン(黄黙) — 203

はじめに

1. 過去1世紀にわたる大きな論争
2. 中国の伝統的価値観と中国における革命による変化
3. 第二次世界大戦後の台湾における政治的・社会的変化
4. 台湾における人権教育

おわりに

## 第10章

### 韓国における学校体罰と子どもの権利をめぐるコンフリクト

————— 吉永省三・浜田進士 — 235

はじめに

1. 「教権」をめぐるコンフリクト
  2. 「旧時代」をめぐるコンフリクト
  3. 「地方教育自治」をめぐるコンフリクト
- むすびにかえて——「伝統」をめぐる考察

## 第11章

### 国際人権レジームの功罪

パプアニューギニアにおける保護命令の「誤解」をめぐる —— 馬場 淳 —— 265

はじめに

1. 保護命令制度の成立
2. 保護命令規則の概要
3. 事例
4. 保護命令の「誤解」

おわりに

## 第Ⅲ部 挑戦される制度——新たな正義の構想

## 第12章

### 社会理論の基礎としての公共性と正義

第2の近代に焦点をあてながら ————— 友枝敏雄 — 289

1. 現代社会をどう捉えるか
2. 公共性について
3. 第2の近代における公共性
4. 正義について

## 第13章

### ケアの倫理とコンフリクトの政治 ————— 岡野八代 — 311

はじめに——ケアの倫理のグローバルな展開

1. ケアの倫理に対する批判と、それへの応答
2. 正義の倫理＝国家の論理を越えて
3. ケアの倫理から、非暴力の世界へ

おわりに——つながりへの注視とグローバルな責任

## 第14章

### 法制度整備支援において何が重要か

#### インドネシア法執行機関の制度構築支援から考えること ——— 河村有教 — 339

はじめに

1. 正義の構想としての法制度整備支援
2. インドネシア法執行機関の制度構築支援
3. 法制度整備支援における人類学的思考の重要性

結語——人類学的思考とは何か

## 結語

## 第15章

### 競合する／しないジャスティス

#### どこにもありどこにもない ————— 石田慎一郎 — 367

1. 競合する／しないジャスティス
2. オルタナティブ・ジャスティス——「非暴力的」な調停・和解
3. 文化と権利——普遍と個別をめぐる普遍主義の陥穽と再生
4. 歴史と認知——暴力の記憶に向き合う
5. 他者と責任——新しい倫理的基礎づけ

### 執筆者紹介 ————— 385